

①—市民の主体性と連帯

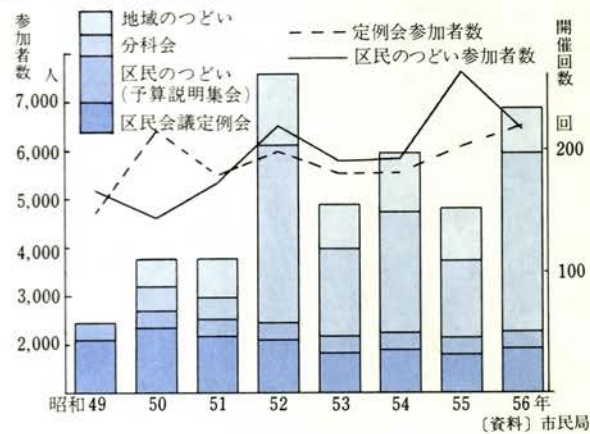
4. 市民参加

●話しあいのテーブル

市民が住み生活する地域は、それぞれの顔を持っている。過去の急激な人口増加は、住宅地を中心に地理的環境を大きく変化させると同時に、多様な価値観をもつ市民の増加によって地域社会の姿も変わってきた。しかし、最近はやや定住化の傾向が進んでおり、ようやく地域の歴史、文化などを生かした街づくりを進める気運が高まっている。

真に地域性豊かな街づくりを進めるためには、地域の諸問題について市民相互が話しあいを重ねるとともに、行政などとの連携のもとに解決策を求めていくという、市民自身の地域社会への参加が必要である。これまでも、住宅地の環境づくりとしての建築協定づくりや魅力ある商店街づくり、ボランティア活動や自治会・町内会活動などさまざまな形で市民参加が進められてきた。今後、住みよい地域社会づくりのためには、これまで以上に多くの機会を通じて、市民が積極的に地域に参加し、連帯意識を高めていくことが重要となろう。

図-1 区民会議定例会などの開催回数の推移



市政への市民参加のひとつの形である各区の「区民会議」は、街づくりなどを話しあう共同テーブルという目的をもって、区民の自主性、主体性にもとづいて、それぞれ誕生した。

●区民会議の充実

「区民会議」が各区に誕生してから八年。これまで多くの市民が、区民会議や区民のつどいなどに参加してきた。五六年の会議



成果があがってきた区民会議だが……

の開催状況を誕生当時と比べると、四・九倍となっている。会議の内容は、教育や福祉など個別の分野から、市の予算、総合計画など広範囲なものまで多彩である。開催の仕方、分科会・地域のつどいにみられるように、話しあいの輪が広がって、きめのこまかい形のを加えてきている。

一方、区民会議の話しあいを通じて実現した施設づくりなどの例も多い。たとえば、戸塚区の金井スポーツ公園の建設はその一例である。また、各種団体や行政機関との連携のもとに、ポルノ雑誌などを対象に悪書追放運動が展開された例もある。

区民会議の足跡とこのような例をみる

と、よりよい街づくりをめざして、身近なところから着実な一歩を踏み出しつつあるといえよう。区民会議の活動が充実していることによって、区民の意見が効率的に行政に反映され、市民本位の市政の発展に寄与していくであろう。

●問題はないのか

具体的な成果が着実にあがっている反面、現在の「区民会議」に全く問題がないというわけではない。

その一つは、制度としてはすべての区民に開放され、たしかに地域のつどいなどをきめこまかく開催するようになってはいるが、たとえば、社会的に弱い立場にある人など、より多くの人たちの声が十分反映されるよう工夫していく必要があるだろうという点である。

二つめは、討議の場が依然として行政に対する陳情の場であったり、市民の意見を吸収する行政側の一方的な場とされてはいないだろうかという点である。とくに、市民同士の話しあいの場としての機能が十分に発揮されているとはいえないであろう。

市民と行政とが互いに経験を積み重ねることによって、区民会議を話しあいの場としてさらに発展させていくことが必要といえよう。

また、情報の提供の問題もある。真の市民参加を実現するにあたっては、市民の側に正しい現状把握と問題点の認識が必要不可欠である。そのために、行政が持っている情報の提供を、その方法などを含めて検討していく必要がある。

●街づくりと市民参加

地域の生活環境の向上や街づくりは、地域住民が「自分たちの問題である」という意識にたって行われることが前提とされなければならぬ。地域には、立場や考え方の違うさまざまな市民が生活し活動している。その市民が地域をよくするという共通の目標のもとに、問題を掘り下げ解決策を考えていくことが必要であろう。

市民がいろいろな形で地域の街づくりや行政にかかわりをもっていくなかから、地域の連帯感が一層高まってくるのではないだろうか。